

膵臓がん

膵臓がんは、消化酵素である膵液が通る、膵管から発生する膵管がんが80-90%を占めているので、一般的に膵管がんのことをさします。

膵臓がんの死亡者数はこの30年で8倍以上に増加し、2023年の統計では、年間の死亡者数が40,000人を超え、がんの種類別死亡者数で胃がんを抜いて3位になりました。

今回は膵臓がんについて解説します。

膵臓がんの危険因子

糖尿病	糖尿病の人は、膵臓がんになるリスクが約2倍になると言われています。特に糖尿病と診断されて1年以内はリスクが約5倍になるので、注意が必要です。
家族歴	近親者に膵臓がん患者がいると発症リスクは約2倍で、特に親子の場合は4～5倍になります。
喫煙	喫煙者は非喫煙者と比べてリスクは1.3～3.9倍です。
飲酒	多量の飲酒はリスクが約1.2～1.5倍に増えるとされています。特に飲酒が原因の慢性膵炎の人はリスクが1.3倍になります。
肥満	肥満の人は、膵臓がんのリスクが1.5倍に増加します。
膵管内乳頭粘液性腫瘍 I PMN	I PMNとは、膵管の中に粘液がたまって、膵管が袋状に広がる病気で、年0.7%の確率でがん化します。

症状

膵臓がんは早期の状態では自覚症状がほとんどないため、なかなか発見することができません。もう少し進行してから腹痛、体重減少、黄疸等で気がつくことがほとんどです。そのため、膵臓がんと診断されたときには進行した状態で見つかることが多いのです。糖尿病の方の血糖値コントロールが急に悪くなった時などは、膵臓がんを発症している場合もあるので要注意です。

腹痛

膵臓がんは膵管から発生するため、がんで膵管が詰まると膵液の逃げ場が無くなり、圧力が上昇して膵管が拡張します。膵管の拡張は膵がんの重要なサインの一つです。また、膵管の内部の圧力が上昇し、膵臓に炎症が起こります。これを随伴性膵炎ずいはんせいすいえんといい、腹痛や発熱を伴うことがあります。

黄疸

肝臓から総胆管という管が膵臓の頭部を貫いて十二指腸に流れており、肝臓で作られた胆汁という消化液を十二指腸に運んでいます。膵臓がんにより胆管が圧迫されることがあり、胆管への圧迫が進むと、胆汁の流れがさまたげられ、全身が胆汁により黄色くなる黄疸という症状が出現します。

体重減少

膵臓は胃、大腸、十二指腸などに接しています。膵臓に腫瘍ができると接している臓器を圧迫して、食事がとれなくなる場合があります。その場合、体重減少という形で症状が現れることがあります。

糖尿病

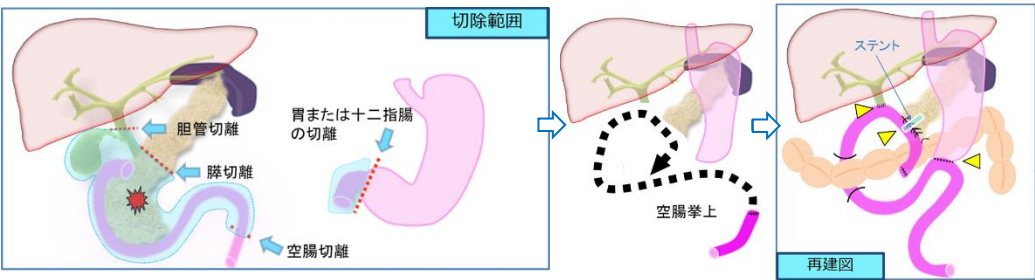
膵臓がんにより、膵臓のインスリン分泌量が低下して、もともとの糖尿病が急に悪化したり、新たに発症したりします。

手術

膵臓は十二指腸につながる膵頭部、体部そして脾臓に接する尾部の3つに区分けされ、膵頭部と体・尾部で術式が異なります。

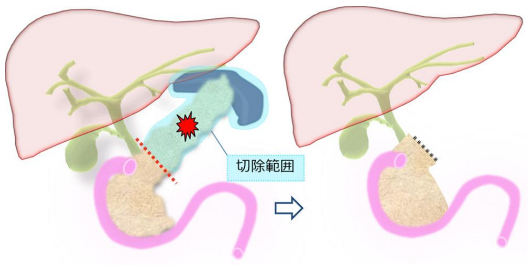
膵頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術

胆嚢、胆管、胃の一部（あるいは十二指腸）、十二指腸～空腸の一部を切除し、周りのリンパ節も一緒に郭清します。食事や膵液、胆汁の通り道を作りなおすため3か所の消化管吻合を行います。



膵体部・尾部癌に対する膵体尾部切除術

脾臓も一緒に切除することとなります。



予後

膵頭部がんに対する膵頭十二指腸切除術は、外科手術の中でも非常に難易度が高い手術です。がんが2cm未満で、膵臓内にとどまり、転移が見られない状態のステージⅠでも5年生存率が50%と低いので、他のがんに比して予後は不良です。